

後期研修医より

飽田先生

年間スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
肝臓		消化管	ICU	肝臓		消化管		胆膵		消化管	自由選択

週間スケジュール

曜日	月	火	水	木	金
午前	外勤	回診	超音波	内視鏡	入院コンサルト/救急外来
午後	各グループ	各グループ	各グループ	各グループ	各グループ

2020年度の飽田博海と申します。出身は熊本大学で、初期研修は熊本医療センターで行いました。現在は、熊本大学の内科専攻医として忙しくも、学びの多い充実した日々を過ごしています。

診療科については研修中に尊敬する指導医との出会いがあり、研修2年目に消化器内科医として医師人生を歩もうと決意しました。消化器内科に興味を持った入り口は、内視鏡操作の面白さに惹かれたことです。研修中は上部内視鏡をスムーズに操作できるようになったり、下部内視鏡で盲腸まで到達した時に、自分の成長が感じられて嬉しかったことを覚えています。初期研修中から模型や実践で熱心に指導して頂き、数多く経験できたことが大きかったと思います。研修医の皆さんも、実際に手技や治療を主体的に経験すると自分が本当に楽しいと思えることが明確になると思いますよ。

実際に消化器内科医として働き始めると、腹部臓器のほぼ全てに対応しなければならないため、幅広い知識と経験が要求されることを実感します。また、内視鏡やエコー、カテーテルなど手技も多種多様であり、日常に新鮮さがあります。疾患も悪性腫瘍から炎症性疾患と様々であり、一生勉強を続けなければならない分野だと思えますが、その分の面白さも感じています。

熊本大学消化器内科では、2020年6月から就任された田中靖人教授の下で数多くの先生方が臨床から研究と精力的に活動されています。国内や海外留学を経験されている方も多くいらっしゃいます。消化管、肝臓がそれぞれ2グループ、胆膵が1グループに分かれており、新入局者は計

5 グループを2ヶ月間ずつローテートします。消化器内科としての基本的な診療から、大学特有の珍しい症例も経験します。教育面では、レジデント向けの朝の講義や内視鏡ハンズオンセミナーなど手厚い指導を頂いております。加えて、研究面では医局運営のテーマとして田中教授は、“Physician scientist(研究マインドを持つ医師)”の育成を掲げておられます。臨床で得た疑問を日常診療で埋もれさせず、研究に結びつけ、自分の専門分野を様々な視点から探究的に考えることができる医師の育成ということで、現在も若手からベテランの先生方がアクティブに研究活動を行っておられます。人生100年時代に突入する中で医師としての長いキャリアを考えた時に、今後も新たな挑戦や経験ができればと、自分自身も臨床医としての基礎を作り上げた後には、大学院への進学を考えています。

是非、興味がある方は、見学や医局説明会もありますので気軽に当科まで連絡をいただければと思います。

## 花園先生

### 年間スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
消化管		胆膵		肝臓	ICU	消化管		肝臓			自由 選択

### 週間スケジュール

曜日	月	火	水	木	金
午前	外勤	回診	超音波	内視鏡	外来予診
午後	各グループ	各グループ	各グループ	各グループ	各グループ

2020年度に入局させていただきました、花園ゆりかと申します。

私は大分大学を卒業し、熊本総合病院、熊本大学病院での2年間の初期研修を終え、2020年度、熊本大学消化器内科へ入局しました。

学生の頃から消化器疾患には興味を持っていましたが、初期研修医として実際に臨床の現場に出てみると、想像以上のハードさに圧倒され、一時期は他の診療科と迷った時期もありました。しかし、吐下血や胆管炎といった急性期疾患から肝硬変などの慢性期疾患、血管内治療や早期癌の内視鏡治療など、様々な分野で活躍される先生方の姿を見て、専門性を持ちながらも幅広くみることができる場所に大変魅力を感じ入局を決めました。消化器疾患は消化管、肝胆膵と扱う臓器が多く、どこの病院でも必ず出会う領域であり、他科から頼られることも多くやりがいがあると思います。また、知識もちろんですが、内視鏡や腹部エコーをはじめとした手技を身につけることができるのも魅力の一つだと思います。

熊本大学消化器内科は消化管2グループ、肝臓2グループ、胆膵1グループと5つのグループに分かれており、レジデントは各グループを2か月ごとにローテートしています。ローテートしている間は、その領域の知識、技術を専門の先生のご指導の下しっかりと学ぶことができます。

また、当科には女性医師も数多く在籍しています。家庭を持っている先生でも多くの検査をされ、ESDやERCP、TACEなどの治療も主体となっていて、そのような姿を見て憧れるとともに、女性医師でもしっかりと活躍できる環境が整っていることに心強さを感じます。

私は他大学出身ですが、当科には他大学出身の先生方も多く、疎外感や変なやりづらさなどを感じる事が全くありません。どの上級医の先生にも相談しやすく、良い意味で垣根の低い医局だ

と思っております。分からないことに対してもすぐにフィードバックして下さるので、恵まれた環境だと日々実感しています。

また、当科では基礎研究、臨床研究もさかんに行われており、研究意欲の高い先生方から日々、刺激を受けています。本年度より就任された田中靖人教授は「physician scientist」、「専門医の育成」を目標に掲げられ、臨床と研究どちらにも対応できる人材の育成を目指しておられます。私も学会発表や論文発表を積極的に行い、医師としてのさらなるスキルアップを目指したいと思います。

入局を決めた当初は正直、やっていけるのか不安でいっぱいでしたが、医局の先生方のご指導、サポートのおかげで充実した毎日を過ごせています。まだまだ未熟ではありますが、同期とともに日々精進して参りたいと思います。

少しでも興味のある学生さんや研修医の先生は一度見学に来ていただくと、消化器領域の楽しさや医局の雰囲気の良いさが伝わるとと思います。気軽に連絡をいただけますと幸いです。